



人を育て 地域を創る

文責：玉名市教育委員会 社会教育指導員 村田二昭

玉名市地域学校協働本部
事業だより第19号
令和2年4月3日

今年度より市内全校区で展開します

新しい年度が始まりました。より多くの、より幅広い層の地域住民や団体等が、地域の子供の育ちを支えるため、当事者意識で関わり、共に学び、共に育ち、10年後、20年後の地域を担う「人」を育てる地域の教育基盤を構築していきたいという願いから、この事業だより名を今回号より「人を育て 地域を創る」と変更しました。



この事業だよりをお届けしますのは、玉名市内外の地域学校協働活動の状況等をお知らせし、学校、地域、諸団体等が情報を共有し合い、学び合い、本事業の推進・拡充につなげたいという思いからです。月1回程度の発行を予定しています。目を通していただけますと幸いです。

今年度より玉名市の全校区で「地域学校協働活動」を展開できるようになりました。さっそく4月3日（金）には、地域学校協働活動推進員事前説明会を開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止せざるを得なくなりました。残念です。今回号にはその説明会の様子等を載せる予定でしたが、事業の概要等のお知らせに変更します。

また、本年度は、裏面の発行計画のように具体的な活動の様子をお知らせしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

いまなぜ、地域学校協働活動なのか？

近年、少子高齢化やグローバル化、情報化の中で子供を取り巻く環境は、複雑化、多様化しています。また、地域における教育力の低下や家庭の孤立化といった問題もあります。そうした状況の中で、地域と学校がパートナーとして連携・協働し、社会総掛かりによる教育を実現することがますます重要になっています。

地域学校協働活動は、幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動です。地域学校協働活動の推進により、それぞれの地域の未来を担う子供たちが、地域の方々に見守られ、支えられながら、豊かな学びや体験の機会を得て健やかに成長していくことは、地域に愛情を持ち、地域に貢献したいと考える人材の育成につながります。

「誰かがなんとかしてくれる、のではなく、自分たちが『当事者』として、自分たちの力で学校や地域を創り上げていく。子供たちのために学校を良くしたい、元気な地域を創りたい、そんな『志』があつまる学校、地域が創られ、そこから、子供たちが自己実現や地域貢献など、志を果たしていける未来こそ、これからの未来の姿である。」

こうした未来を目指して、社会総掛かりによる教育を実現するために、地域学校協働活動を全国的に推進していきたいと考えています。

「地域学校協働活動ハンドブック(文部科学省)」より



人を育て 地域を創る

文責：玉名市教育委員会 社会教育指導員 村田二昭

玉名市地域学校協働本部
事業だより第20号
令和2年5月1日

春風や 闘志いだきて 丘に立つ (高浜虚子)

苦難の時期を乗り越え、草原の丘に立ち、温かく穏やかでありながらも爽やかさも感じる春の風を受けながら、強い決意を抱き、凜とした姿で未来を見つめている・・・そのような情景が浮かんできます。

しかし今年の春は様相が違います。新型コロナウイルス感染の拡大防止のため、先月には史上初の緊急事態宣言が全国に発出されました。玉名市においても小中学校の休校が5月31日まで再延長されるなど、多方面にわたりこれまでに経験したことのない事態を迎えており、その対応に学校も家庭・地域の皆様もさぞかし苦心されておられることと思います。

ただ、だからこそ今、「春風や 闘志いだきて 丘に立つ」なのかもしれません。1日でも早い新型コロナウイルス感染の終息を願うばかりです。

今回は、「地域学校協働活動はこれまでの学校支援とどう違うのか？」について書きます。



地域学校協働活動はこれまでの学校支援とどう違うのか？

地域はこれまでも、学校と連携しながら教育活動に取り組んできました。それぞれの地域の環境や歴史、文化に合わせた特徴ある授業が展開され、子供たちの豊かな学びを支えてきました。かつては保護者や同窓生等が、近年では学校支援本部等が中心となって、学校の求めに応じて協力者との連絡調整にあたるなど、教育課程内・外にわたり地域は学校を支援してきた歴史があります。

では、地域学校協働活動は、これまでの学校支援とどこがどのように違うのでしょうか。その違いは端的に表すと、「支援」から「連携・協働」へ。地域が学校や子供たちを応援・支援するという一方向の関係から、**地域と学校がパートナーシップに基づき双方向の関係になる**ことです。これまでの活動をベースに、子供の成長を軸にして自立した地域社会の基盤の構築・活性化を図る「**学校を核とした地域づくり**」を目指します。例えば学校と地域住民が共に地域の課題を解決する活動や、地域の行事に学校が参画して、共に地域づくりに関わるといったような取組を推進することです。

また、従来の個別の活動を**総合化・ネットワーク化し、組織的・安定的に活動を継続できるような仕組みを整えることが重要です。**

各地域（校区）におかれましては、これまでに培ってこられた地域（校区）と学校の温かい連携の実績を基盤にしながら、更に新しい連携・協働を展開していかれるであろうと拝察しております。どうか、それぞれの地域（校区）が互いに手を携えつつ、それぞれの特性を活かし、「誰か」がでなく「自分」が「当事者」として自分たちの力で学校や地域（校区）を創り上げていかれますことを願っております。

裏面あり

これまでの歩みから No.1 ～玉名中学校編～

これまでの学校本部支援事業、地域学校協働活動の中から、いくつかの例を紹介していきます。今回は玉名中学校編です。

サマースクール



退職校長会との連携・協働



九州看護福祉大学との連携・協働

職場体験学習



民間企業、団体・機関等との連携・協働

書き初め大会



書道指導ボランティアとの連携・協働



連絡とお願い

コミュニティ推進課では、例年4月に事業の説明やお願い、情報交換等のために事業対象校を訪問していましたが、今春は新型コロナウイルス感染拡大防止の主旨から中止しました。

つきましては、訪問の際に持参する予定であった書類、物品等を各校の担当棚を使い届けします。また、電子媒体として各学校の代表メールアドレスに届けたデータもあります。それぞれを確認の上、地域学校協働活動推進員と連携をとり活用していただけますようお願い申し上げます。

また、活動の様子を写真データで m-ogata@city.tamana.lg.jp まで送ってくださると有り難いです。この事業だより等に活用させていただきたいと考えています。



人を育て 地域を創る

文責：玉名市教育委員会 社会教育指導員 村田二昭

玉名市地域学校協働本部
事業だより第21号
令和2年5月22日

新緑の あの木この木の 鬱々と (山口青邨)

5月になり、桜の季節から新緑の季節。コミュニティ推進課の窓から見える木々もいつの間にか緑が濃くなったような気がします。

木の葉をじっと眺めていてもその繁り具合の変化はわかりません。毎日同じところにあって毎日見ているはずの木でも、その成長にはなかなか気づかないものです。しかし、少しずつゆっくりと確実に成長しているのですね。

緊急事態宣言が解除されました。久しぶりの子供たちの姿はいかがでしょうか？そして6月からは本格的な学校教育活動の再開。街や学校に子供たちの姿や歓声が戻り、華やぐことでしょう。

とはいうものの、信号が変わったからと一斉に勢いよくスタートダッシュは切れないようです。しばらくはゆっくりゆっくりの安全運転がよいようです。そうでないといつ信号が黄色に変わるかわかりません。一言で「ステイホーム」と呼びかけられてきたこれまでより、自粛を解いていく匙加減が難しくなると思われます。「新しい生活様式」で長期戦です。

今回は、「地域学校協働活動にはどんな効果があるの？」というテーマで書きます。



地域学校協働活動にはどんな効果があるの？

子供たちにおける効果

- ◆多様な地域住民とのふれあいを通じて、学びや体験が充実します。
※「〇〇ができるようになって嬉しいです。」
- ◆地域に根ざした活動を地域住民の方々との参画を得ながら実施することで、子供たちのふるさとに対する理解と愛着、地域の担い手としての自覚が高まります。
※「自分も地域の一人として、少しでも地域の力になれるようになります。」
- ◆地域の課題を多様な方々と共に解決といった経験を積むことで、子供たちのコミュニケーション能力、自ら課題を解決しようとする資質や能力が高まります。
※「地域の方と気軽に挨拶ができるようになりました。」
- ◆活動を通じて、子供たちが信頼できる大人と多くの関わりを持ち、愛情を注がれることにより、自己肯定感や他人を思いやる心など、豊かな心が育まれます。
※「中学生になったら、小学生への読み聞かせをしたい。」

学校における効果

- ◆活動を通じて、地域の中に、学校の教育活動に対する理解者、支援者が増えます。
※「子供たちの登下校時に声をしてくれる方が増えて、見守りの効果が高まりました。」
- ◆地域資源を活かした効果的な授業づくりが進むとともに、「社会に開かれた教育課程」への具現化が図られます。
※「学校教育だけでは教えられないことも、地域の方から数多くのことを学ぶことが増えました。」
- ◆各種ボランティアが組織化されることで、教職員の異動にかかわらず、継続的な学校支援体制が整います。
※「教職員の働き方改革につながります。」
- ◆教職員自身が地域の人々との関わりを通じ、地域の一員としての自覚や責任感を認識するとともに、教育者としての意欲が高まり、豊かな指導力の発揮につながります。

地域における効果

- ◆自らの知識や技能、学びの成果が子供たちの教育の場で生かされることで、地域住民等の生き甲斐や自己実現の機会がつけられます。
※「そろばん講座のおかげで、学校では“そろばん先生”と呼ばれて嬉しいです。」
- ◆子供たちを含めた地域住民の参画による地域課題の解決につながる活動を通して、地域づくりの担い手が育成されるとともに、地域の教育力が向上します。
※「地域の祭りに中学生が企画・運営に入ってくれるので、これからも引き継がれていくでしょう。」
- ◆子供たちの学びを核として、地域住民同士がつながり、地域に緩やかなネットワークが構築され、地域コミュニティ再生につながります。
※「学校に行く機会が増えて、地域の仲間も増えました。」



人を育て 地域を創る

文責：玉名市教育委員会 社会教育指導員 村田二昭

玉名市地域学校協働本部
事業だより第22号
令和2年6月8日

雨に映える紫陽花の季節に

5月「皐月」「May」「薫風の候」から6月「水無月」「June」へ。
青葉若葉の新緑から、雨に映える紫陽花の季節になりました。

あぢさいの どの花となく 雫かな (岩井英雄)

雨や曇り空の下、木立の陰に咲き誇る神秘的な美しさが印象に残ります。紫陽花が一気にその存在感を増しつつある今日この頃です。

さて、今回は、地域学校協働活動の具体例を紹介します。下の図は、昨年10月に市内全小中学校から寄せられた「地域学校協働活動として想定される例」をまとめたものです。昨年度No.18でも紹介しています。参考にいただければ幸いです。

活動内容は地域（校区）の実態に応じて様々です。多様な活動の全てを最初から行うことを求めるのではなく、それぞれの地域（校区）における活動の進捗状況に応じて、まずは子供たちの成長にとって何が重要であるかを地域（校区）で共有し、ビジョンを持ち、実行可能な活動からスタートしていきましょう。

ただ、学校は再開されましたが、新型コロナウイルス感染はまだ終息していません。学校は感染症対策と教育活動の両立という緊張感に包まれた状況だと思われます。ここは学校の教育活動の方針をもとに、学校と地域学校協働活動推進員が意思疎通を図り、尚一層連携し合い、やれることをやれる方法で安全に動き出してくださいますようお願い申し上げます。

6月19日（金）には、新型コロナウイルス感染拡大防止のため4月に実施できなかった地域学校協働活動推進員対象の事前説明会を開催します。今後の本事業の推進をよろしくお願い申し上げます。



地域学校協働活動の例

学習支援

- 丸付け補助
- 特別支援学級の授業支援
- 読み聞かせ活動
- クラブ活動の補助
- 書道指導支援
- 算盤指導支援
- 栽培活動支援
- 家庭科指導支援
- 地域探検の補助
- 校外学習のG T
- 職場体験学習の連絡調整
- 印刷ボランティア
- 体育指導支援（水泳、持久走）
- 朝自習の見守り
- キャリア教育の講師

等

安全・環境

- 登校時の見守り、交通指導
- 「110番の家」の設置
- 部活動の安全見守り
- 校外学習時の安全確保
- 休み時間の運動場の見守り
- 長期休業中の花壇等の管理
- 定期的な除草活動、窓拭き等
- 樹木剪定
- 苗作り、定植、花壇整備
- 不要品の処理
- 農園の管理
- フッ化物洗口ボランティア
- 地域と連携した防災組織と防災訓練

等

地域交流

- 児童・生徒の体験活動に関わる関連機関との連絡、調整
- 学校行事での事業協力、補助
- 支館主催行事及び関連行事に関する連絡、調整
- 放課後子供教室の講師
- 地域行事参加時の引率、指導

等





人を育て 地域を創る

文責：玉名市教育委員会 社会教育指導員 村田二昭

玉名市地域学校協働本部
事業だより第23号
令和2年7月1日

「ボランティアの人材確保」と 「地域と学校の接点強化」

今回は6月19日（金）に開催した地域学校協働活動推進員事前説明会をとりあげます。グループ協議等で出た意見を集約すると、これから解決すべき課題は大きく「ボランティアの人材確保」と「地域と学校の接点強化」の2点に絞られるようです。では、その解決のためにはどうしたらよいのか？地域学校協働本部全体をあげて取り組んでいかなければなりません。

今年度初めて本事業に携わる方が多い状況です。また、新型コロナウイルス感染拡大のため、出ばなを挫かれた感もあります。地域学校協働活動推進員さんをはじめとして関係される皆様には、どう動いたらいいのかという思いがあられたことでしょう。それらの課題が一日でも早く解決し、楽しく活動していただけますようにと願っています。皆さん、できることから無理をせず安全に動き出してください。



【委嘱状交付の様子】

【実践発表やグループ協議の中で話題になった事柄】

- ◎ ボランティア、地域組織、企業等の理解を得ることが充実した活動につながる。
- ◎ 行政とともに推進していくことが重要である。
- ◎ 人と話して輪を広げる。
- ◎ 身近なことから、できることからやっていく。
- ◎ ボランティアの人材確保を進める（人材確保が難しい）。
- ◎ 地域の方の役割一覧表（人材バンク）を作成する。
- ◎ 地域組織との会議を開きたい。
- ◎ これまでに長年地域の組織との会合を重ねており、知ってもらい、協力体制を作っている。今年度も近日中にその会を立ち上げる。
- ◎ 地域に8つの協力団体がある。代表メンバーの集まりを開きながら活動している。
- ◎ 学校職員との関係を強化する。
- ◎ 各学校、各学級の活動状況を把握する。
- ◎ 支援者同士でコミュニケーションがとれ助け合っている。
- ◎ 生徒からのお礼のカードをもらった。
- ◎ あいさつ運動で生徒一人ひとりの顔がわかるようになった。
- ◎ 学校運営協議会との連携を図る。
- ◎ 中学校区でのつながりを強化する。
- ◎ 地域から学校へのアプローチを進める。
- ◎ 学校の要望を調査した。ボランティア募集のチラシを作成し校区全戸に配布し、幅広くボランティアを募りたい。ボランティアに喜びを。
- ◎ 年間計画を作成する。
- ◎ 地域の民生委員や区長等を通して人材をリスト化して学校に提案していくと同時に学校のニーズを集めていく。そして双方の連携を構築していく。
- ◎ 高校生が小中学生を指導するシステムを構築する。



【グループ協議：玉陵中学校区】



【グループ協議：岱明中学校区】



【グループ協議：有明中学校区】



【グループ協議：天水中校区】

【まとめ（指導・助言）】

- ◎ 地域住民の代表者会議を開きましょう。
- ◎ 地域学校協働活動推進員の中学校区ごとの会議を実施しましょう。例えば、2ヶ月に1回程度…。
- ◎ まず学校の担当者と連携をとみましょう。
- ◎ 年間活動計画表を作成しましょう。
- ◎ 人材バンクを作成しましょう。
- ◎ できることから無理をせず、周りの人に協力してもらおう（任せる）ことがあってもよい。たくさんやるのではなく、1つの活動から何がうまれるか見極めて、それを目的にして活動しましょう。
- ◎ 玉名教育事務所主催研修のお知らせ ☎ 8月4日（火）午前10時～ 玉名総合庁舎



【グループ協議：玉名中学校区】



【グループ協議：玉南中学校区】



人を育て 地域を創る

文責：玉名市教育委員会 社会教育指導員 村田二昭

玉名市地域学校協働本部
事業だより第24号
令和2年8月7日

夏河を 越すうれしさよ 手に草履 (与謝蕪村)

幼い頃、私は夏休みになると小岱山の麓にある祖父母の家やいとこの家に入り浸りでした。近くの川で魚を釣ったり獲ったり、そして泳いだり。清々しく澄み切った冷たい川の流れの心地よさが蘇ってきます。その日本の原風景みたいな所で大いに夏を満喫したものでした。令和2年の今年、子供たちはこの夏休みをどのように過ごしているのでしょうか。



さて今回は2校区の活動の様子を紹介します。事務局に届けられたデータをもとに作成しました。

天水中学校区

「天水町を見に行こう！」
生徒会委員会別に天水町の課題について
調べに出かけました。



【学級委員会】
学習塾を開いている方に
中学生の学習について
質問しました。



【図書委員会】
小天天子宮の清掃に
向かっているところで
す。



【生徒会執行部】
商工会に行き、天水中
が2年前から参画してい
る夏祭りについて質問し
ました。



【生活安全部】
駐在所で天水町の交
通安全について質問しま
した。

睦合小学校区

区長への説明会



民生委員、駐在所員 への説明会



水泳授業の見守り



守ろう!ホタルの里



ホタルの里保全隊との連携による「出前授業」

【子供の声】
ホタルは睦合の宝。来年
は家族で鑑賞会に行ける
といいな。
【地域ボランティアの声】
ホタルを見て歓声を上げる
子供たちが励み。これから
も伝え続けたい。
(7/25熊日朝刊より)

選挙についての出前授業



【選挙に当選した子供の
声】
感染者が増えていること
を新聞で見て心配してい
る。対策が進んでほし
い。
(7/23熊日朝刊より)

選挙管理委員会との連携
による「出前授業」



人を育て 地域を創る

文責：玉名市教育委員会 社会教育指導員 村田二昭

玉名市地域学校協働本部
事業だより第25号
令和2年8月28日

8月「August」から9月「September」「長月」「菊月」へ。「初秋の候」。
ふと気づくと蝉の鳴き声が虫の音（ね）に変わっていました。昼間の陽射しはまだまだ強いものの、
吹く風や朝夕の空気に秋の訪れを感じる今日この頃です。

秋来ぬと目にはさやかに見えぬども風の音にぞおどろかれぬる

（藤原敏行）

他に、この時季の句を二つほど・・・

うつくしや 障子の穴の 天の川（小林一茶）

桐一葉 日当たりながら 落ちにけり（高浜虚子）

さて、今回は八嘉小学校区の活動の様子を紹介します。八嘉小学校のHPのデータから作成しました。



八嘉小学校区



5年生家庭科：運針の学習

ぼくは、黒田さんの「にぎわってもらうため」という言葉が心に残りました。なぜなら面とくさいと思う人もいるかもしれないのに、にぎわってもらうため、という気持ちが本当にすごいと思ったし、1991年から今まで1回も休みなくしているから本当に関わっている人達が頑張っていることがすごく分かりました。

（児童のお礼の手紙より）



4年総合的な学習の時間：
「八嘉夏祭り」実行委員長
黒田氏の講話



5年生：田植え体験

とてもいい体験でした。毎日お米が食べられるありがたさが分かったし、お米作りをする人はすごいなあと思いました。学校で田植えの勉強をしてきたけれど、やってみて、全然違うと思いました。やってみないと、作っている人の思いが分からないと思いました。そして、ちゃんとご飯を残さず食べようと思いました。

（児童のお礼の手紙より）

私は、昔はウンチやおしっこを肥料にしていたと聞いて、びっくりしました。また、大根などの野菜で水分補給をしていて、私だったら絶対生きていけないと思いました。これからは節水や食料に感謝していきたいし、水を大切に使いしていきたいです。

（児童のお礼の手紙より）



4年生社会科：「八嘉の昔の水」
谷口氏の講演

大根を水のかわりにしていたことや家に井戸がほってあったことにとってもおどろきました。それに、手を洗う水がなかったり雨水を飲んでいたりしたことにもとてもびっくりしました。私はこれから手を洗うときには水を止めたり、歯みがきするときの水はコップ1杯にしたりするなど、自分でできる節水を心がけようと思いました。

（児童のお礼の手紙より）





人を育て 地域を創る

文責：玉名市教育委員会 社会教育指導員 村田二昭

玉名市地域学校協働本部
事業だより第26号
令和2年9月8日

オミナエシ、ススキ、キキョウ、ナデシコ、フジバカマ、クズ、ハギが「秋の七草」。「春の七草」のように、それを摘んだり食べたりするのではなく、「秋の七草粥」も存在しません。花野を散策して短歌や俳句を詠むことが古来よりなされ、山上憶良が詠んだこの歌に由来します。

秋の野に咲きたる花を指（および）折りかき数ふれば七種（くさ）の花

今回は、玉水小学校区と大浜小学校区の活動の様子をお伝えします。



【秋の七草】

玉水小学校区の活動の様子

3年生が「尾田川を守る会」の平川氏にインタビュー



【平川氏の話】

- 毎月1回掃除をしています。
- 最近困っていることは、ブラックバス等の外来種が増えていること、水草を除去しなければならないことで水質がかわったこと、熊本地震で池が赤くなり水草が枯れてしまったことです。
- 地域に迷惑になる使い方、危ない使い方をした人達がいたことで川に入ることが禁止になりました。

【児童の声】

- 毎月1回掃除をされているので、ごみがなくきれいだし魚がたくさんいるんだ。
- 勝手な行いをする人がいることが残念だ。

2年生がイモ苗を植えました



地域の方々から植え方を聞いてから植え始めたのですが、途中で不安になり再度植え方を尋ねる子、自分でどんどん植える子と様々でした。

大浜小学校区の活動の様子

5年生総合的な学習の時間：「菊池川学習」



《ゲストティーチャーの戸寄さんをはじめ菊池川流域協議会との連携》

【児童の主な声】

Q：菊池川で遊んで、どんなことを感じたり、気づいたりしましたか。

- 潮の流れが速かった。川の水は増えたり減ったりする。
- 泥が思ったより深かった。ぬかるんでいたり、丸い石があったりした。
- いろいろなカニがいた。
- テレビやDVD、ペットボトルがあった。

Q：菊池川で遊んで、どんなことが気になりましたか。

- たくさんカニがいた。他にも生き物がいるのか。どのように生きているのか。
- 手前と向こうの岸の石の大きさが違った。
- どうして泥の中が黒いのか。

Q：菊池川についてどんなことを調べたいと思いましたか。

- どんな生き物がいるのか。どのように生活しているのか。
- 今と昔で菊池川は変わったのか。
- 菊池川はどのような働きをしているのか。
- 川の流れはいつも同じなのか。どのように流れているのか。
- ゴミはどこから来るのか。
- 岸が泥だったり石だったりするのはなぜか。土が柔らかい所はどういう所か。

今年度から新たに「菊池川学習」を開始。単元導入で課題発見のために校外学習に出かけた時の写真です。





人を育て 地域を創る

文責：玉名市教育委員会 社会教育指導員 村田二昭

玉名市地域学校協働本部
事業だより第27号
令和2年9月16日

清少納言が著した枕草子の冒頭の部分です。秋をこう詠んでいます。

秋は夕暮れ。夕日のさして山の端いと近こうなりたるに、鳥の寝どころ行くとて、三つ四つ、二つ三つなど、飛び急ぐさへあはれなり。まいて雁などのつらねたるが、いと小さく見ゆるは、いとをかし。日入りはてて、風の音、虫の音など、はたいふべきにあらず。



「秋の日は釣瓶落とし」です。暮れ始めたなと思っていると、あっという間に暗くなってしまいます。そのわずかな時の流れの中に、秋の風情を感じ、これまでに見覚えた数々の夕方の光景が脳裏に浮かんできます。

今回は、岱明中学校区の活動の様子をお届けします。

岱明中学校区の活動の様子

豪雨被災地にエールを！



被災地でボランティア活動をしている地域学校協働活動推進員の茶木谷氏の講演

今、自分たちにできることは何か？

つらい思いをされた方々を少しでも元気づけられたら、うれしい。
【生徒会長：高木さんの言葉】



義援金を届けようと募金活動開始



全校生徒が応援メッセージ作成

災害の恐ろしさを伝え自然災害を甘く見ないように自覚を促すとともに、対岸の火事として眺めるのではなく、助け合い支え合うことの尊さを実感することを通して、豊かな心の育成と人間形成につなげたい。
【茶木谷氏より】

民生委員さん方13名と岱明中ボランティア委員会36名で花植え。地域の方々との花植えは3年目。中学生は地域の方々との交流を通して花苗の植え方を学び体験でき、地域の方は中学生と交流（花苗植え）できることを喜んでおられます。「中学生への声掛けもしやすくなった。民生委員同士の繋がりも強くなった」と話されます。ウインウインの関係で活動が展開されています。

ロータリー花壇に花を！



お知らせとお願い

第19号に載せた事業だより発行計画は中止しています。活動されました下記まで写真のデータや子供・地域の方・先生方等の声をお寄せくださるようによりしくお願い申し上げます。この事業だよりを活用させていただきたいと考えています。
m-ogata@city.tamana.lg.jp



人を育て 地域を創る

文責：玉名市教育委員会 社会教育指導員 村田二昭

玉名市地域学校協働本部
事業だより第28号
令和2年9月18日

空澄めば 飛んできて咲くよ 曼殊沙華（及川 貞）

四方より 馳せ来る畔の 曼殊沙華 （中村汀女）

気持ちのよい秋晴れの下、車で出かけていると、道路の脇や田畑の畦道の真っ赤な花が目飛び込んできました。鮮やかです。彼岸の頃になると、律儀なほどきっちりとこの「彼岸花」が咲きます。自然界の変調を感じる昨今ですが、季節は間違えることもなく、確かに「秋」に移っているようです。「暑さ寒さも彼岸まで」と言います。涼しさを感じる風にも少しずつ冷たさが加わっていくことでしょう。秋が日々進行しています。

今回は、鍋小学校区の活動の様子をお伝えします。校区の史跡を巡る3年生に、声をかけていただいた事務局員2名が同行しました。



鍋小学校区

3年生総合的な学習の時間：「岱明むかし話 ～地域の史跡を知ろう～」



【石山まつり】

わたしたちのために石山まつりのことを教えてください。ありがとうございます。石山には神様がやどっているということをはじめて知りました。本村と明神尾の人たちが石山を大切にしているということが分かりました。これから勉強をがんばります。島村さん、お元気でいてください。

《児童のお礼の手紙から》



【上鍋の地蔵さん】

なげあみに引かかったおじょうさんを長い間まつて、おまつりをしてこられた上鍋の人たちはとってもやさしいと思いました。そのほかの10体のおじょうさんや咳の神さまの「はっちゃんこばあさん」のこともおしえてくださってありがとうございました。むかしのことがわかってうれしかったです。

《児童のお礼の手紙から》



【上鍋の猿田彦さん】

この前は、ありがとうございます。こま犬さんを二回たたいて、神様にねがいを伝えたらかなうことや、まことの人は天の神様に伝わることもわかりました。1100年前すがわらのみちざねさんがいて、前はここが鍋の寺子屋だったことも知れてうれしかったです。岩田さん、いつまでもお元気でいてください。

《児童のお礼の手紙から》

《地域ボランティアさん方の声》

- 有難うという気持ちを大切にしてほしい。人のため、世の中の人のためになれる人になってほしい。生まれてきたことを意識し、先祖や神様を大事にする人に育ててほしい。
- 話をしっかり聞いてくれて有り難うございました。毎日元気に学校に登校して勉強してください。
- 誠の心を持った人の願いは天にも通じる。心が悪い方に行かないように努力しなければなりません。大野さん（鍋小学校区の地域学校協働活動推進員）にしっかりお礼を言いましょ。しっかり勉強してください。

《地域学校協働活動推進員さん（大野氏）の声》

- お一人お一人、一軒一軒を回らないことには事は動きません。足を運び話し込むことが大事です。
- 地域のために何かを学んでくれたら、という思いで取り組んでいます。これは、費用対効果で測られることはありません。20年後、30年後にこの子らがどのような行動をするか、それが答えだと思っています。



人を育て 地域を創る

文責：玉名市教育委員会 社会教育指導員 村田二昭

玉名市地域学校協働本部
事業だより第29号
令和2年10月2日

学校では後期を迎えようとしている今、各学校では「社会に開かれた教育課程」の展開に尽力されていることと思います。どうぞこの「地域学校協働活動」を活用してください。学校と地域がパートナーとして結びつき、各小中学校の教育活動がますます充実していきますようにと願っています。

玉名中・玉陵中合同校区連絡会が開催されました。他の校区でも是非開催を！

9月11日（金）に玉名中学校区と玉陵中学校区の6小中学校区の推進員さん方が合同での校区連絡会を開かれました。事務局にも声をかけてくださいましたので同席しました。

各推進員さんからは、新型コロナウイルス感染拡大に影響されながらも活動されている状況が報告されました。同時に、皆様のご苦勞の様子もよく伝わりました。その具体的な状況は多岐にわたっているのですが、終盤「ボランティアを発掘しよう！人材バンクを作ろう！」という方向性が出されました。

そこで、改めて「ボランティアの探し方」と「人材バンク」について書きます。

ボランティアの探し方

募集して集める地域ボランティア

学校や各種事業などの要求（ニーズ）に応じた地域ボランティアを探す基本的な方法は公募です。教育委員会などと相談して、どんなボランティアが必要なかを明記し、学校や自治会を通じて、保護者や地域住民に募集チラシを配布したり、広報やホームページを活用したりしてボランティアを集めましょう。

個別に依頼して集める地域ボランティア

専門的な知識や技術を必要とする地域ボランティアを募集する場合は個人に直接依頼しなければならないことがあります。その場合は、地域の様々な団体や企業などから情報を収集したり、紹介してもらったりしましょう。

地域ボランティアを探すときに協力してもらえる団体等

- ◆学校教職員
 - ・教員OBなどの情報を得られます。
- ◆PTA役員（OB）、自治会役員
 - ・地域の「人、もの、こと」をよく知っています。
- ◆教育委員会・公民館の職員
 - ・ボランティアの情報や研修についての情報をもっています。
 - ・地域のサークルなどの活動情報をもっています。
- ◆ボランティア団体・NPO
 - ・ボランティア活動の実践者です。
- ◆社会教育関係団体（女性団体、青年団、子供会役員、老人会など）
 - ・まちづくりのリーダーとして活動しています。
- ◆保護者のおじいちゃん・おばあちゃん
 - ・一番身近な存在です。
- ◆他の校区の推進員
 - ・お互いの情報を交換することで、地域ボランティアの情報が広がります。

推進員さんの生の声です。「募集の用紙を配布しても人はうまく集まりませんでした。一軒一軒、一人一人を回りました。5、6回目くらいでやっと『何を話せばいいの？どうすればいいの？』と話が進みました。足を運ぶことが大切だと思います。・・・有り難く思います。

ご苦勞をおかけします。推進員さん方と学校の担当の先生方がこの活動のキーパーソンです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

人材バンクについて

以前から「地域ボランティアの方には校区の枠を越えて活動していただけないか」という声が届いています。そのような活動をしていただける方の存在はとて有り難いです。

そのためにも、同一中学校区は勿論のこと、市内の全小中学校が日常的に連絡・連携できるシステムが必要になってきます。校区連絡会や研修会等で繋がりましょう。

人材バンクについては、地域ボランティアを発掘しながら活動されている最中だと思われますので、年度末に市内全校区の人材を総括してはどうかと考えています。

この事業では人と人との繋がりが大切です。どうぞ「校区連絡会」を開催していただきたいと思います。可能であれば事務局からも出席させていただきたいと思いますので一報をお願いします。

ボランティアを発掘しよう！
人材バンクを作ろう！





人を育て 地域を創る

文責：玉名市教育委員会 社会教育指導員 村田二昭

玉名市地域学校協働本部
事業だより第29号
令和2年10月2日

学校では後期を迎えようとしている今、各学校では「社会に開かれた教育課程」の展開に尽力されていることと思います。どうぞこの「地域学校協働活動」を活用してください。学校と地域がパートナーとして結びつき、各小中学校の教育活動がますます充実していきますようにと願っています。

玉名中・玉陵中合同校区連絡会が開催されました。他の校区でも是非開催を！

9月11日（金）に玉名中学校区と玉陵中学校区の6小中学校区の推進員さん方が合同での校区連絡会を開かれました。事務局にも声をかけてくださいましたので同席しました。

各推進員さんからは、新型コロナウイルス感染拡大に影響されながらも活動されている状況が報告されました。同時に、皆様のご苦勞の様子もよく伝わりました。その具体的な状況は多岐にわたっているのですが、終盤「ボランティアを発掘しよう！人材バンクを作ろう！」という方向性が出されました。

そこで、改めて「ボランティアの探し方」と「人材バンク」について書きます。

ボランティアの探し方

募集して集める地域ボランティア

学校や各種事業などの要求（ニーズ）に応じた地域ボランティアを探す基本的な方法は公募です。教育委員会などと相談して、どんなボランティアが必要なかを明記し、学校や自治会を通じて、保護者や地域住民に募集チラシを配布したり、広報やホームページを活用したりしてボランティアを集めましょう。

個別に依頼して集める地域ボランティア

専門的な知識や技術を必要とする地域ボランティアを募集する場合は個人に直接依頼しなければならないことがあります。その場合は、地域の様々な団体や企業などから情報を収集したり、紹介してもらったりしましょう。

地域ボランティアを探すときに協力してもらえる団体等

- ◆学校教職員
 - ・教員OBなどの情報を得られます。
- ◆PTA役員（OB）、自治会役員
 - ・地域の「人、もの、こと」をよく知っています。
- ◆教育委員会・公民館の職員
 - ・ボランティアの情報や研修についての情報をもっています。
 - ・地域のサークルなどの活動情報をもっています。
- ◆ボランティア団体・NPO
 - ・ボランティア活動の実践者です。
- ◆社会教育関係団体（女性団体、青年団、子供会役員、老人会など）
 - ・まちづくりのリーダーとして活動しています。
- ◆保護者のおじいちゃん・おばあちゃん
 - ・一番身近な存在です。
- ◆他の校区の推進員
 - ・お互いの情報を交換することで、地域ボランティアの情報が広がります。

推進員さんの生の声です。「募集の用紙を配布しても人はうまく集まりませんでした。一軒一軒、一人一人を回りました。5、6回目くらいでやっと『何を話せばいいの？どうすればいいの？』と話が進みました。足を運ぶことが大切だと思います。」・・・有り難く思います。

ご苦勞をおかけします。推進員さん方と学校の担当の先生方がこの活動のキーパーソンです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

人材バンクについて

以前から「地域ボランティアの方には校区の枠を越えて活動していただけないか」という声が届いています。そのような活動をしていただける方の存在はとて有り難いです。

そのためにも、同一中学校区は勿論のこと、市内の全小中学校が日常的に連絡・連携できるシステムが必要になってきます。校区連絡会や研修会等で繋がりましょう。

人材バンクについては、地域ボランティアを発掘しながら活動されている最中だと思われますので、年度末に市内全校区の人材を総括してはどうかと考えています。

この事業では人と人との繋がりが大切です。どうぞ「校区連絡会」を開催していただきたいと思います。可能であれば事務局からも出席させていただきたいと思いますので一報をお願いします。

ボランティアを発掘しよう！
人材バンクを作ろう！





人を育て 地域を創る

文責：玉名市教育委員会 社会教育指導員 村田二昭

玉名市地域学校協働本部
事業だより第30号
令和2年10月21日

10月「神無月」「October」「神去月」「時雨月」「初霜月」。「清秋の候」「秋涼の候」。秋が深まります。この時季の句を2つほど…。

秋の雲 はてなき瑠璃の 天をゆく (山口誓子)

この道や 行くひとなしに 秋の暮れ (松尾芭蕉)

「実りの秋」「読書の秋」「食欲の秋」「スポーツの秋」「行楽の秋」「芸術の秋」……。皆様方にとりまして実り多い秋となりますように祈念します。

今年度も折り返しを迎えました。本年度から市内全校区において展開しております本事業も後半を迎えます。来年度の更なる充実を目指し、その対策を練りながらこれからの事業を進めていきたいと考えております。

さて、今回は豊水小学校区、大野小学校区の事業展開の様子をお伝えします。事務局に寄せられたデータをもとに編集しています。各校区からのたくさんのデータ送信をお待ちしております。



豊水小学校区

地域ボランティアの方々の協力を得て

全校児童（学校行事）：花の種まき

生活環境委員会：ビニルハウスのビニル張り



大野小学校区

6年生家庭科：ミシン指導支援



【ボランティアの方の声】

- 久しぶりに子どもと触れ合えて楽しかったです。ミシンの使い方も初めは大丈夫かなあと思いましたが、使うたびに上手になっていました。
- 初めてボランティアに参加しました。子どもたちから「ありがとうございます」と言われて楽しい時間になりました。また、子どもたちと活動できることがあったら、学校に伺いたいと思います。



【子どもたちの声】

- ボランティアの方は、すごく優しく丁寧に教えてくださっていました。教え方がすごく上手でわかりやすかったです。
- 困ったときに、丁寧に優しく教えてくださったのでうれしかったです。分からなくなったときに聞くとすぐに教えてくださいました。だから思ったより早く作り上げることができました。自分で作ったナップザックを使うのが楽しみです。また、ボランティアの方に教えていただきながら勉強したいです。

【担任の先生の声】

初めてボランティアの方に来校していただきました。最初はどうなることかと思いましたが、子どもたちもすぐにボランティアの方と打ち解け、和気あいあいとした雰囲気でもしんを使った作業ができました。

ボランティアの方のご指導がとてもわかりやすく、子どもたちも次第にミシンの使い方が上手になっていきました。

3回予定してあった授業が、おかげさまで2回で終わることができました。

ボランティアの方も「久しぶりに子どもたちと触れ合えて楽しかった。また次回も来たい。」とおっしゃっていました。



人を育て 地域を創る

文責：玉名市教育委員会 社会教育指導員 村田二昭

玉名市地域学校協働本部
事業だより第31号
令和2年10月28日

10月21日（水）の朝、目を覚まし玄関を開けると、キッキッ、カッカッという鳥の鳴き声が聞こえてきます。声の方向に目をやると庭の梅の木に2羽のジョウビタキがとまっています。冬になると姿を現すかわいい小鳥です。久しぶりで懐かしいです。しばらくすると他の冬鳥もやって来るだろうと楽しみにしています。



【ジョウビタキ】

10月「神無月」「October」から、11月「霜月」「November」へ。7日は「立冬」。ジョウビタキが冬の先駆けとしてやってきたようです。

今回は高道小学校校区の活動の様子をお伝えします。

高道小学校区

被災地のことを知って、
自分達に何かできることはないか。



真剣に話を聞く子供達



メッセージカード

高道小学校では、9月1日の防災の日に、校区にお住まいの茶木谷氏（学校評議員、外国語 CT）が、人吉・球磨地方の豪雨災害の状況について講話を行われました。各教室では、スクリーンに映し出された現地の写真を見ながら、子どもたちは真剣に話を聞いていました。その後、児童会の提案で「励ましのメッセージと鉛筆を贈ろう」となりました。

【メッセージの抜粋】

- 3年生：大変なことがいっぱいあると思いますが、がんばってください。元気でいることが一番だと思います。元気でいることをねがいます。
- 4年生：悲しい時には楽しい思い出を考えてみると気持ちがいやわらいでいきます。今とても苦しいと思います。早く幸せの年にもどりますように。
- 6年生：だいじょうぶですか？きつとつらいですね。なので、ぼくがおうえんします。がんばれ！一勝地小学校！渡小学校！

地域学校協働活動の情報や状況等をお知らせし、学校、地域、諸団体等がそれらを共有し合い、学び合い、本事業の推進・拡充につなげたいと本事業だよりを発行しています。各校区から事務局に寄せられたデータをもとに編集しています。活動の様子の写真や子ども・地域ボランティア・推進員・学校職員の方々等のメッセージを m-ogata@city.tamana.jp までお届けください。たくさんの発信をお待ちしています。よろしくお願い申し上げます。

地域学校協働活動の基本的考え方 その1

「地域学校協働活動の推進に向けたガイドライン」（文部科学省）より

(1) 支援から連携・協働へ

地域による学校の「支援」から、地域と学校のパートナーシップに基づく双方向の「連携・協働」、すなわち、互いの役割を認識し、共通の目標に向かい対等な立場で共に活動するかたちへと発展させていくことが重要です。

(2) 総合化・ネットワーク化

これまでの学校支援活動、放課後子供教室といったそれぞれの活動を、将来構想・目標を踏まえ、有機的に連動させ、総合的な広い視野で地域と学校の連携・協働を推進していくことが重要です。「個別」の活動から「総合化・ネットワーク化」し、活動が総合的に発展していくことを目指す視点も大切です。



人を育て 地域を創る

文責：玉名市教育委員会 社会教育指導員 村田二昭

玉名市地域学校協働本部
事業だより第32号
令和2年11月6日

玉名中学校区

読み聞かせの様子をお伝えします。

今回は、玉名中学校区の活動の様子をお伝えします。10月20日（火）に玉名中学校お話の会「とわの木」の読み聞かせがあります、と声をかけてくださいましたので、事務局員も玉名中学校を訪問しました。3年生の6クラスで実施されており、生徒たちは、静かに、そして一心にボランティアの方々の話に聞き入っていました。この後、11月、12月、1月、2月と4回の読み聞かせが計画されています。ボランティアの皆様、よろしくお願いいたします。



学校運営協議会との連携について

10月29日（木）、声をかけてくださいましたので有明中学校区の推進員さん4名が開かれた校区連絡会に事務局も同席させていただきました。その際、学校運営協議会との連携についての話題が出ましたので、下の資料を紹介します。

学校運営協議会との連携

「地域学校協働活動ハンドブック」（文部科学省）より

地域住民や保護者の意見を学校運営に反映させる仕組みとして学校運営協議会が設置されている学校（コミュニティ・スクール）では、地域学校協働本部と学校運営協議会の双方が機能することにより、次のような効果が期待されます。

- ◎学校運営の改善と連動した地域学校協働活動の推進
- ◎地域と学校の組織的・継続的な連携・協働体制の確立
- ◎子供の教育に関する課題や目標等の共有による当事者意識の高まり



つまり、コミュニティ・スクールにおいてこそ、地域学校協働活動を進めていくことが必要であり、学校運営協議会の機能と、地域学校協働活動が両輪となって学校を動かしていくことで、「地域とともにある学校づくり」が実現できるのです。

平成29年3月に地方教育行政法が改正され、学校運営協議会では学校運営に関する協議だけでなく、学校運営への必要な支援についても協議することになり、学校運営協議会委員として地域学校協働活動推進員を追加する、協議結果に関する情報を地域住民等に提案するなど、制度の見直しが行われました。

地域学校協働活動の基本的考え方 その2：前回の続き

「地域学校協働活動の推進に向けたガイドライン」（文部科学省）より

(3) 継続性・持続可能性

- 地域学校協働活動の継続的・安定的な実施を通じて、地域と学校が相互に知識や経験、資源や施設を提供し合うことは、持続可能な地域づくりにも寄与するものであると言えます。自らの地域や学校、子供たちにとって重視すべき「持続可能性」とは何か、そのために何ができるのかを考えてみることも有効な視点となります。

(4) 地域や学校の実情や特色に応じた活動

- 地域や学校の実情や特色、活動の発達段階に応じて、それぞれの地域や学校において、どのような課題を抱えているかを把握した上で、どのような活動を推進するのかを検討し、活動することが重要です。



人を育て 地域を創る

文責：玉名市教育委員会 社会教育指導員 村田二昭

玉名市地域学校協働本部
事業だより第33号
令和2年11月26日

11月「霜月」「November」から、12月「師走」「初冬の候」「寒冷の候」へ。21日は「冬至」。今年もいよいよ最後の月となりました。我が家の猫の額ほどの菜園では、大根、ホウレンソウ、春菊、ネギなどが随分大きくなり、空に向かって大きく葉を広げています。この後、厳しい寒さの中で鍛えられ、いっそう味がのってくることでしょう。そこでこの時季の句を…

ねぎ白く 洗ひたてたる 寒さかな (松尾芭蕉)

あんたが来てくれる 大根もふとうなっている (種田山頭火)

今回は玉陵小中学校区の活動の様子をお伝えします。



玉陵小中学校区

おもてなしフラワープロジェクト 新玉名駅に寄せ植えを設置

11月13日(金)に玉陵小中学校の児童・生徒が季節の花を寄せ植えしたプランターを新玉名駅に設置しました。名付けて「おもてなしフラワープロジェクト」。連絡をいただきましたので事務局も赴きました。現地での取材及び両校のホームページをもとに編集しています。

《子どもの声》

新玉名駅を「花でいっぱい」にして、利用されるお客さんの「笑顔でいっぱい」の駅にしたいです。

《駅長さんの声》

花を届けてくださるのは地域の方々の気持ちのあらわれだと思います。ありがとうございます。新玉名駅を花のあふれる「日本の花の駅」にしたいと思っています。



地域の担い手として地域貢献を！

《推進員さん (荒木氏)の声》

学校で子どもたちと一緒に花を育てていると元気をもらえています。これからは、新玉名駅を利用される方々にも元気になってもらいたいと思います。

《子どもたちのメッセージカードから》

- 地域が花いっぱいになって明るくなればと思いを込めて育てました。玉陵の子どもたちが元気パワーを込めて育てています。一緒に頑張りましょう。
- 今年はコロナなどで大変な年でしたが、僕たちの花が少しでもみなさんの心の支えになればと思います。
- ぼくたちの花でみなさんが笑顔になってもらえればうれしいです。そして、毎日楽しく明るい気分で過ごしていただけたらいいなと思います。
- 今、コロナ禍で暗い世の中になっていますが、僕たちが頑張って育てた花を見て、少しでも多くの人に明るい未来への希望や今を生き抜く勇気をあたえられたらと思います。



【花苗の植え付け】



【リヤカーに載せて】



【いざ、新玉名駅へ】



【駅長さんへ】



人を育て 地域を創る

文責：玉名市教育委員会 社会教育指導員 村田二昭

玉名市地域学校協働本部
事業だより第34号
令和2年12月15日

宇城市教育長であり大津高校サッカー部総監督を務めておられる平岡和徳氏が執筆された記事が地元紙に連載されています。以前平岡氏が中学生に講演されるのを聞いたことがあり、その時のキーワードを記録していたはずと探してみました。ありました。30ほどメモしていました。いくつか紹介します…

「まず、自分の課題を知れ」「1日24時間をデザインしろ」「目指すゴールのない者に進む道はない」「苦しい時、もうダメだと思う時、次に何ができるか。それが力である」「努力とは、とんでもない大変なことだと思っていたことを、これが当たり前だと言えるようになることである」等々。

今回は、伊倉小学校区、築山小学校区、玉南中学校区の活動の様子をお伝えします。

伊倉小学校区



【地域見守り隊対面式】



【花作りボランティア】



【花作り交流会】



【花作り交流会】

築山小学校区



【フッ化物洗口支援】



【九州看護福祉大学との連携】



【登校見守り】



【ミシンの学習支援】

玉南中学校区

～北稜高校との連携～
プランターへの花苗の植え付け



農業の魅力を学び…



この辺まで土を入れて…



花を選んで、こう植えて…



たくさん綺麗にできました

《高校生の声》

- 除草作業をして綺麗になっていくのが嬉しい。
- 果樹等の事を専門的に学べて楽しい。
- フラワーアレンジを学びたくてこの学校を選んだ。
- 実習が楽しい。

《中学生の声》

- とても楽しかった。
- 高校生が優しく教えてくれたから分かりやすかった。
- 高校生が面白かった。

《地域学校協働活動推進員さん(松田氏)の声》

- 中学3年生は進路について考える時なので、高校生と直接話し交流することができて良い時間だったと思う。
- 地域の方だけでなく、様々な方との交流ができて、良い機会になったと思う。



人を育て 地域を創る

文責：玉名市教育委員会 社会教育指導員 村田二昭

玉名市地域学校協働本部
事業だより第36号
令和3年1月8日

（新年を）待ったり（去る年を）惜しんだり、また（来る年を）喜んだり、心配したり、人によって思いはさまざまに新しい年になった。天の岩戸から射したような神々しい初日の光に、明治25年というこの年のよい兆しがはっきり見えだして、心までもが新しくなったようであるのも不思議におもしろい。人より早くと急いで起きて新年最初の水（若水）をくみ上げるのも、われながら心はずむ。



明治25年元旦に書かれた樋口一葉（当時19歳）の日記です。現代の文章で紹介しました。「新しい気持ちでがんばろう」という華やかな思い、潔い決意が伝わってくるようです。

5日（火）は「小寒」でした。小寒から「立春」（2月4日）の前の「節分」までが「寒の内」。1年で一番寒い時期を迎えますが、健康で心あたったかな毎日が送れますようにと願っています。

今回は、滑石小学校区と小天小学校区の活動の様子をお伝えします。

滑石小学校区

体験することで学んでいきます。



昔遊びクラブ



昔遊びクラブ



イモ苗の植え付け



イモの収穫

小天小学校区

いい 子供たちの課題が解決していきます。

「地域の祭りを調べよう」4年生
《天子宮の火の祭り》



祭りの内容を学ぶ



祭りに関わる人々の思いを学ぶ

「平和学習」6年生
《戦争の体験を聞こう》



地域学校協働活動推進員の水本氏がボランティアの村上氏を紹介



村上氏による戦争体験の講話



村上氏への質問の時間



人を育て 地域を創る

文責：玉名市教育委員会 社会教育指導員 村田二昭

玉名市地域学校協働本部
事業だより第37号
令和3年1月8日

冬はつとめて。
雪の降りたるはいふべきにもあらず、
霜のいと白きも、またさらでも、
いと寒きに、火などいそぎおこして、
炭もてわたるもいとつきづきし。



「枕草子」原文の冬の冒頭です。清少納言は、冬は朝がいい、それも雪が降っていけば申し分ないと言っています。身も心も引き締まる、凛とした冬の朝の潔さが伝わって来るようです。

今年の冬はコロナ禍の中、寒さ以外の要因も絡み合い、例年以上に「厳しい冬」になっているようです。そして、20日は「大寒」。寒さもこれからが本番ですが、「冬来たりなば春遠からじ」と乗り越えていきましょう。冬の寒さが厳しいほど桜は美しく咲くと言われます・・・

今回は、横島小学校区と玉名町小学校区の活動の様子を紹介します。

横島小学校区



【3年生：横島の野鳥】

講師は満田実氏（日本野鳥の会熊本県支部）です。野鳥の生態について興味津々の子どもたちでした。質問が絶えませんでした。



【毎朝の登校見守り】



【5年生：稲刈り】



【環境整備：町づくり委員会】



【環境整備：民生委員児童委員】

玉名町小学校区



【2年生き物さがし：地域ボランティア】



【見守り：防犯ボランティア】



【雑巾贈呈式：老人会】



今回で玉名市内全小中学校区の活動紹介が一通り済みです。それぞれの校区では特色を活かした様々な活動が展開されておりますが、その活動の様子を十分に紹介できておらず申し訳ありません。また、これまで長年にわたり築いてこられた地域と学校の連携・協働や新しい試みがコロナ禍のため制限され、多くの校区で歯痒い思いをされていることは想像に難くありません。その厳しい状況の中、安心安全に留意しながら創意工夫を凝らし活動されてきた皆様に心より敬意を表します。

今年もあと2か月と少し。今年度を総括し、来年度以降の更なる充実につなげましょう。「社会に開かれた教育課程」が具現化され「学校を核とした地域づくり」が尚一層進展することを願っています。

どうぞよろしくお願いいたします。





人を育て 地域を創る

文責：玉名市教育委員会 社会教育指導員 村田二昭

玉名市地域学校協働本部
事業だより第38号
令和3年2月1日

初雪や 水仙の葉の たはむまで (松尾芭蕉)

冬にいち早く咲く水仙。初雪の中で青々した葉のしなやかな強さを詠った句。冷たい空気の中、あちらこちらで水仙の凛とした姿を見ることができます。

1月、「正月」「祝い月」「睦月」「January」から風香の舞う2月、「如月」「衣更着」「梅見月」「February」へ。1月も終わります。2月2日は「節分」、3日が「立春」です。まだまだ寒いですが、暦の上では「春」になります。陽射しも日一日と暖かくなっていくことでしょう。



《地域学校協働活動推進員向け講座》

つながる つなげる 地域と学校 ～仲間といっしょに地域学校協働活動 入門編～

新年を迎え、「地域学校協働活動推進員向けの講座『つながる つなげる 地域と学校』～仲間といっしょに地域学校協働活動入門編～」がスタートしました。今年度は1月と2月で計5回が予定されており、来年度、再来年度もそれぞれ複数回開催されます。その内容を紹介します。

1年目(令和2年度): 仲間といっしょに地域学校協働活動 入門編

2年目(令和3年度): 学校支援活動を中心に活動を充実させる。

3年目(令和4年度): 学校支援活動から地域活動(地域づくり)へつなげる。

今年度の第1回は1月14日(木)。内閣府地域活性化伝道師の三角幸三氏を講師にお招きして開かれました。演題は「不安が期待に変わる!～

聞いて、聞かせて推進員の胸の内～」。推進員さん方は、グループに分かれ交流を深めつつ、様々な学校の状況を想定した事例研究を行われました。参加された推進員さんのアンケートから一部抜粋して紹介します。

【今回の講座は、あなたの役にたちそうですか?】

- 学校でできない事を地域に任せてもらうよう、地域ボランティアの人材を発掘していきたいと思いました。
- 多種多様な手法を学んだ。最後に結論がありプラスになる。
- 地域の方の気持ち、教員の気持ち、両方の気持ちをつなげるのが自分の役割だなと改めて感じた。

【今回の講座で、特に印象が残ったことは何ですか?】

- 地域との交流をすることによって(子どもの)学力が上がる、モチベーションが上がる、コミュニケーションを学ぶ。
- 最後の学校支援会議の相談プログラム(事例研究)は役に立った。
- 好奇心を持たせて子供たちを活性化させる。
- 先生が教えられない“社会の力”を教えるのは“地域力”なんだということ。



【研修中の推進員さん方】

皆様、実に明るく、熱心で、積極的・意欲的に学んでおられ、会場は充実した空気に満ちていました。とても気持ちよかったです。

そして、講師の先生が帰られるとき、「推進員さん方の意識が高いですね」とおっしゃいました。それは、上のアンケートからも伺えます。とても頼もしく思います。この地域学校協働活動の最大のキーパーソンは推進員さん方です。よろしくお願いいたします。

最後に、県教育委員会社会教育課北岡主幹の挨拶の一部を紹介します。

活動することだけが目的ではありません。また、これまで行われてきた学校支援の活動と活動自体に変わりはないのです。ただ、「活動を通してどんな力をつけさせるのか」を学校と地域で共有することが重要です。それを繋げるのが推進員さんの仕事です。「**なんのためにやるのか**」「**どんな力がつくのか**」を常に念頭において活動に臨む必要があります。ただ、マンパワーに頼り過ぎると倒れます。五者(学校、地域、家庭、子供、行政)連携で取り組み、**ネットワークを作り上げる**ことが大切です。

【地域学校協働活動を実施しての効果・成果】

○**環境が人をつくる**＝美しく整備された環境のもと、地域住民から毎日声をかけてもらうことで、子供達は安心して生活でき、落ち着いた学校生活を送ることができている。結果として、教職員の負担軽減がなされるようになり、働き方改革につながった。

○**地域が一つに**＝学校支援をはじめとした地域学校協働活動の取組が、統合後の6小学校区をつなぐ取組に変化している。学校運営協議会委員や地域学校協働活動推進員が学校で熟議を重ねながら、「地域どうしをつなぐ」役割を担うようになった。

○**地域と学校の「双方向」の深まり**＝各教科、学校行事での支援が充実しており、地域住民の教育力が、生きがいや自己実現の場になっている。一方、児童・生徒は地域住民から「してもらおう」だけでなく、流鏝馬や神楽といった地域の祭り、敬老会手伝いなどのボランティア活動に参加・参画する人数が年々増加し、積極的に貢献しようとする態度が見られるようになってきている。



【学校運営協議会小中
合同ランチミーティング】



【地域駅伝大会で月瀬太鼓の披露】

写真で見る地域学校協働活動

～玉陵小中学校学校運営協議会～

【小中合同あいさつ運動】

地域住民の方々が、あいさつ、交通指導と声かけを毎日実施。児童会生徒会も参加。終了後は子供と大人で反省・評価し「コミュニティの場」となっている。



【環境スクールボランティア】

学校内外で地域住民とともに美化作業を実施。学校はいつも美しく保たれ花いっぱい。校区内の新玉名駅の花壇整備も行い、地域の憩いの場に。



作業の手順を地域住民が説明



学校内の花の手入れ



新玉名駅で地域住民とともに

【多彩な学校支援】



読み聞かせ：中学生が小学生に



読み聞かせ：小中学校で毎月実施



文化祭：「狂言」指導



総合的な学習の時間：「茶道」指導



さつまいも栽培プロジェクト



田植え指導



じゃがいも収穫指導



「門松づくり」指導

【地域行事への参加・参画、地域貢献】



「金栗四三」子供ボランティアガイド



玉名市の「大俵まつり」に参加する生徒



地域の夏まつりでソーラン節を披露する児童



人を育て 地域を創る

文責：玉名市教育委員会 社会教育指導員 村田二昭

玉名市地域学校協働本部
事業だより第40号
令和3年2月 日

蒼とは 汝も知らずよ 露の臺^{とう} (与謝蕪村)

まだ寒い中、蒼（つぼみ）とは知らずにふくらみ、花とは知らず花ひらく・・・拙宅の菜園の片隅に露の臺が顔を出しました。時を逃すまいと早速天婦羅でいただきました。あの特有の香りとほろ苦い風味が春の到来を告げます。梅の花のつぼみもほころびました。冷たい風に耐えて眠っているように見えて、季節の変化を確実に捉えています。改めて自然の神秘を思います。



《地域学校協働活動推進員向け講座》

つながる つなげる 地域と学校 ～仲間といっしょに地域学校協働活動 入門編～

第38号で1回目の様子やアンケートの一部抜粋をお伝えしました。今回は2回目と3回目のアンケートの一部抜粋を紹介します。

第2回「活動が楽しくなるコミュニケーション術！～人とつながるコツが分かる！～」(1月21日)

【今回の講座は、あなたの役にたちそうですか？】

- 人とのコミュニケーションは大切で、相手に対する評価ばかりではなく、自分の方にも原因があることに気付きました。
- 毎日「あいさつ」を子供達が笑顔で学校に行けるようにと見守りながらやっていますが、自分の心がまえをもう一度考えることができました。
- 自分の苦手なタイプへのコミュニケーションのとり方、言葉のかけ方などとても勉強になりました。

【今回の講座で、特に印象が残ったことは何ですか？】

- 顔の表情を考えること。「へえ」↑、「はあ」↑、「ほお」↑の使い方。
- 人間関係を詳しく説明してくれた。
- パーソナル分析で改めて自分の性格を確認し、苦手な人への対応がわかりました。
- 訊いてたずねる(「聞く・聴く・訊く」の違い)。
- 必ず相手の名前を呼ぶようにすることが大切だと改めて感じました。以前から知っていたが、改めて大切さがわかった。実際名前を呼ばれて自分自身とてもうれしかった。

第3回「子供たちは、地域の宝もの～子供たちの瞳が輝くこと教えます！～」(1月28日)

【今回の講座は、あなたの役にたちそうですか？】

- 現在実行されている具体的な内容を知ることができて良かった。他の学校で他の方たちが今動かれている内容を知ることができ、とても参考になりました。
- 実際に校長先生の話が聞けてよかったです。たくさんの活動をされているので、自分の取り組みを見つめ直すことができた。
- これまでの活動を振り返りながら、もっと他の地域の良い所も学び推進員活動に取り組みたいと思います。心の視野を広げたいと思います。
- 活動そのものが目的ではない。どんな子供になってほしいか、力を身に付けさせたいか等の意識がよく分かりました。

【今回の講座で、特に印象が残ったことは何ですか？】

- 「私たちには異動がある」のひとことが、何気なく印象に残りました。地域の情報の語り部が学校には居られない。それを埋めるのが推進員だと思いました。
- 丸塚校長先生の話にあったように、子供たちの活動をサポートするだけでなく、一緒に楽しみ、子供の将来の成長を楽しみに活動したいと思います。
- 地域住民と学校が一緒になって子供たちを育てていく大切さ。地域の行事に子供たちがただ参加するのではなく、役割をもって参加すること。
- グループ討議で各学校の様子、推進員さんの取り組み方を聞いたことです。
- 先生(学校側)の本音を聞けてよかったです。

今回の一連の講座に出席していると思うこと、それは「感謝」です。1つの活動を実施するには、活動の裏で、事前・事後を含め膨大なエネルギーが必要です。仕事をはじめたくさんの用件をお持ちだろうに、子供たちのため、地域のためにと時間が足りなくなるほど研修を重ね、本事業を推進していこうとしてくださる推進員さん方に感謝します！ありがとうございます！

裏面あり

引き続き、第3回の講座終了後のアンケートで寄せられた意見・要望等を紹介します。

○インフラの整備を！（ネット環境、モバイル wi-fi・ノート PC など）

○空き教室を活用した地域拠点作り。

○他の学校ではどんな活動をしているか、もっと知りたいです。自分の学校ではどんな活動ができるか参考にしたいから。

○初年度の今年、活動は何にするか？どんなものがあるか？人探しはどうすればいいのか？等に意識がいて、どんな子供になってほしいか、子供にどんな力をつけさせたいかまでに及んでいなかったような気がします。ぜひ次年度はそこまで考えられる推進員になりたいと思います。

○グループワークでも新しい推進員の方との情報交換ができたのでとてもよかった。他の中学校区の推進員の方々との話す機会がもっと増えるといいと思う。

○人材バンクを玉名（荒尾）地域で共有できるシステムとコーディネーターがあれば、校区をまたいで活用できる人材が生まれると思います。

○本日のように各校長先生 or 係の先生等の具体的な話を聞ける講演会を開いてほしいと思います。

○来年度の推進員の仕事に対する事の悩みを聞き入れる場がほしい。

【お詫びと訂正】

事業だより第36号において、小天小学校4年生「地域の祭りを調べよう」の学習の様子を紹介しましたが、その際お宮の名称に間違いがありました。お詫び申し上げ、次のように訂正いたします。

《訂正前》天水宮 → 《訂正後》天子宮



人を育て 地域を創る

文責：玉名市教育委員会 社会教育指導員 村田二昭

玉名市地域学校協働本部
事業だより第41号
令和3年3月10日

月雪が溶けて 川になって 流れていきます。
つくしの子が はずかしげに 顔を出します
もうすぐ春ですね～♪



40数年前にヒットした「春一番」の冒頭部分です。実になつかしいです。この時季になると、つい口ずさんでいることがあります。何だかウキウキしてきます。この歌、ご存知ですか？ ちょっと古かったですかね…。

2月「如月」が終わり、3月「弥生」「花見月」「桃月」「桜月」へ。3日「ひな祭り」、5日「啓蟄」、20日「春分の日」。今年の「春一番」はすでに2月20日に吹きました。3月5日の未明には「春雷」が響きました。季節はすっかり春めいてきます。

《地域学校協働活動推進員向け講座》

つながる つなげる 地域と学校 ～仲間と一しょに地域学校協働活動 入門編～

今回は、第4回と第5回のお知らせをします。この2回の講師は県統括コーディネーターの山平敏夫氏でした。ここで講座の内容を全てお伝えすることは叶いませんが、山平氏からいただいた資料の中から「目指す姿」と「中央教育審議会答申の言葉から」を紹介します。

目指す姿①：支援→連携・協働へ (双方向・対等へ)

- ▼子供がお客さんになっている。
- ▼「貸し借り」をつくらない。差があると感じると不平不満につながる。地域から学校への支援の一方になっている。

○子供をお客さんにしない。

- ※自分のことは自分です。
- ※自分で考え、自分で決めて、自分で実行する。

○双方にメリットがある活動をする。

- ※子供たちから地域等への支援活動
- ※子供たちの力を生かす。
- ※子供たちを参画させる。
- ※大人の学びを生かす。

目指す姿②：個別→総合化・ネットワーク化

- ▼学校や地域が抱える複雑化・多様化した現代的課題に対応できていない。
- ▼学校支援活動、地域活動、放課後子供教室等、多様な活動が個別に実施されてきた。

○活動を組み合わせたり、活動に関わる人を交流させたりする。

- ※活動でつながる。
- ※人でつながる。
- ※場所でつながる。

平成27年12月の中央教育審議会答申の言葉から

誰かが何とかしてくれる、のではなく、自分たちが「当事者」として、自分たちの力で学校や地域を創り上げていく。

子供たちのために学校を良くしたい、元気な地域を創りたい、そんな「志」が集まる学校、地域が創られ、そこから、子供たちが自己実現や地域貢献など、志を果たしていける未来こそ、これからの未来の姿である。

裏面あり

引き続き、第4回、第5回の講座終了後のアンケートで寄せられた感想・意見・要望等を紹介します。

【あなたの役に立ちそうですか？】

- 1年間の活動を振り返ることができました。
- 「心に残る10の言葉」から、具体的な内容がわかった。
- 今後の地域学校協働活動の推進にとっても役立つ。
- 自分が気づけなかった活動を知ることができました。
- たくさんの資料を提示いただいて、頭の中で少し整理をすることができました。ありがとうございました。
- 「推進員の始まり」から分かりやすく話して下さい、なるほどと思いました。
- 協働活動のあり方、進め方について役に立ち、とてもよかった。
- たくさんの方々の活動例を聞くことができた。自分の担当校区にも取り入れようと思う事例があった。
- グループ討議で他の学校の方と意見交換ができ、とても役に立ちました。
- 演習と協議、どれも来年度への参考にさせていただきます。

【特に印象に残ったことは何ですか？】

- 「個」→「ネットワークで活動」に変えていきたい。
- ぼんやりとしていたこの事業を(よく)知ることができてよかったです。
- 子供をお客さんにしない、双方にメリットがある活動。このことを心にとめて活動したいと思います。
- 熊本県内(一部)の活動の様子の写真で、前向きな取り組みがされている様子を視覚的に確認できたことが、来年度に向けて参考になりました。
- コロナ禍の中で学校内ではなかなかできないこともあるが、できることを学校と協力して楽しんでやってください！とおっしゃった内容。
- 子供ヘルパー事業は、地域を知る上で大切だと思う。
- グループワークが多く、そのグループでいろいろな話をするのができて良かった。とても参考になりました。
- 「プラス1に挑戦(ブラッシュアップ)」を考えること。
- 「『やってみたい』に挑戦(新規)」を皆さんで出し合ったことが勉強になりました。いろいろなアイデアを聞けたので参考になりました。
- 既存の活動内容の改善すべきことが明確になった。やってみたい活動が文字におこすことによって具体的に変わった。
- リモートを活用すること。さらに地域を歩き、多くの人と話していきたいと思いました。
- 子供をお客様にしない。子供から率先して行動するようにしたい。

【意見、要望等】

- 明日の学校運営協議会で委員のみなさんに伝えていきます。今までの支援体制から「やりたい！」という子供たちの参画を引き出す一役を担っていきたいと思いました。
- 知りたいこと等が網羅されていて大変役に立ちました。推進員さんの話し合いの時間がもう少し長いとよかったです。もう少し聞きたいこともありました。
- 子供たちに「よかった！」と言ってもらえる内容の活動ができるようになったらいいなと思いました。
- 学校担当者との交流があれば良いと思います。

今年度の一連の講座はこれにて終了します。2月25日(木)の閉講式では、県教育委員会社会教育課の北岡主幹が挨拶の冒頭で「推進員の皆様の『こんな子供に育ってほしい』という熱意が素晴らしい」と話されました。私も5回の講座を通して、推進員さん方が実に熱心に研修される姿に、玉名市のこの事業が尚一層充実していくであろうという思いを強くしました。本当に有り難く思います。この講座は、来年度も再来年度も内容を変えながら継続して開かれていきます。これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

この事業だよりも今回が令和2年度の最終号です。本事業の概論や具体的な活動事例等をお伝えしたかったのですが、見識が浅い上に拙文で、その目的を遂げることができたか心配しております。申し訳ございません。最後に、お読みいただいたことに感謝申し上げ、今年度末の挨拶とします。ありがとうございました。